

北九州市民の会ニュース

来年は「さよなら原発！3.11北九州集会」に

10月26日(月)、「さよなら原発北九州集会」の第1回実行委員会を開催しました。

来年の、3.11集会をどういうふうに取り組むかが主な議題でした。コロナ対策、雨対策等を考慮し、屋内集会で行うことになりました。3月7日(日)を第1候補にして、至急、会場の手配を行いました。ソレイユホール、芸術劇場等当たりでしたが、土日はほぼ埋まっていました。「3.11でもいいんじゃない」と、会議で確認していましたが、3月11日を仮押さえています。平日になりますが、10年目を迎える3.11集会としては良いのではないかと思います。次回、実行委員会は、11月13日(金)19:30分です。会場は、北九州市立生涯学習総合センターです。具体的な内容を詰めていきたいと思えます。よろしくお願ひします。(深江氏メールより)

「平和をあきらめない北九州ネット」定例集会



10月19日は、「平和をあきらめない北九州ネット」の定例19日行動でした。この日は特に、日本学術会議の105人の推薦から6名の任命を認可しなかった菅首相に対して、怒りのアピールがリレートークされました。北九州市立大学からO先生とI先生が集会に参加してくださり、問題点を整理した発言があり、退職してかなりになるM先生もアピールし、新鮮な感じの集会ができました。

北九州ネットでは、11月3日(火:文化の日)2:00~3:00市民と野党共闘を強めるための集会を、同じ小倉駅デッキで開催します。多数ご参加ください。

若松お買物バス運行開始!

10月26日(月)から

石峰山コース
高塔山コース

10月31日、若松区民の会は、北九州市交通局を招き出前講演「ダイヤ改正、お買物バスの運行等について」を聞いて討論。若松区民の意見を聞きながら第3次北九州市営バス事業経営計画素案づくりについて説明してくれました。これについて区民の意見

をどんどん寄せてほしいと真摯に要請されました。区民の会からもこうすればもっと改善されるのではないかと気さくに意見を交換し合う素晴らしい出前講演となりました。

これに「高齢者福祉乗車券」が実施されれば、高齢者の移動権は大幅に保障されるのではないかと明るい展望が見えてきたとともに、区民の会の本来の役割を示す先例になるように感じました。北九州市交通局は、若松区以外についても市営の買い物バスの運行と「高齢者福祉乗車券」を実施すれば、高齢者の交通権を守る先進的な政令市になれるのではないのでしょうか。

「高齢者福祉乗車券」の実施を求める陳情署名の口頭陳述は11月11日(水)10:00~三輪事務局長が行います。議会傍聴をよろしくお願ひします。(文責:三輪事務局長)



年金者組合若松支部が32回定期大会



10月31日(土)、若松市民会館視聴覚室で若松支部の定期総会が開催されました。最初に、2019年度物故者

7名のご冥福を祈り黙とう。さすがに高齢者の出席が目立ったものの、会場の雰囲気は明るく元気があふれていた。若松支部は、組合員数273名で福岡県では最大組織を維持しています。コロナ禍のもと、「仲間づくり」では後退し、10%消費税増税の強硬は、くらしと経済に大打撃となりました。安倍政権を継承する菅内閣の下で、年金引き下げ反対、消費税は5%に戻せなど、市民と野党の共闘で政治の革新を求めていく行動方針を確認・採択しました。2019年度決算、2020年度予算、役員人事などすべての議案を満場一致で採択しました。最後は団結がんばろう!で閉めました。

平和とくらしを守る北九州市民の会

〒803-0817 小倉北区田町13-21 田町ビル3F
Tel. 093-592-5000 FAX093-571-4346
<http://siminnokai.sakura.ne.jp>
e-mail: koe@siminnokai.com



9条の会・北九州憲法ネットが総会 天久弁護士が記念講演



10月17日(土)、北九州憲法ネットと憲法共同センターの共催による記録映画「1960年安保闘争～不滅の足跡～」と天久泰弁護士記念講演「安保闘争を現代につなげる」が開催されました。参加者：78名、アンケート回収数：43枚。総会は一括提案で承認されました。アンケートの一部を紹介させていただきます。

◆60年安保闘争に至る映画をありがとうございました。当時、東京にいた私は、自由参加していました。今、あの頃の熱気が沸きおこればと、願わずにられません。

◆映像の乱れがありました。事実が凄いだけに、迫力がありました。若い人が頑張っていることが印象的です。今だけ見ると、若者が元気がないとも思われがちですが、日本人もまんざらでもないと思われました。要は、どう運動を作っていくかですね。天久弁護士の話も整理されていて、勉強になりました。

◆本日は、貴重な映像や講演を聞かせていただき、ありがとうございました。一人ひとりが、個々の存在としてしかできなくなり、絆というか、つながりが希薄になった現在、私たち一人ひとりの力は微力だけれど、決して無力ではない筈です。これからの、この国の在り方を、一人一人が真剣に考えなければならぬと思います。その為にも、もっと若い人たちが政治に関心を持って、考える場を増やさなければならぬと思います。50～60

年前の安保の時代と現在、・・・熱量の違いを感じます。
◆天久先生がプロフィールとレジメの事件と関連させて話したのが印象深かった。私は、「臣民、として、1939年に生まれ、45年に国民学校に入学、8月8日の八幡大空襲で焼け出され、8月15日に終戦。新憲法で、小学生となったのが、私の原点。それに通じる話とと思いました。レジメと話が合致し、分かりやすい。まとめへの流れ、素晴らしい。

◆60年安保闘争を直接闘った経験が、今までの人生に決定的といえる原点となり、「雀百まで踊り忘れず」の心境。安倍・菅政権との闘う姿勢は、変わらない。幸せな人生である。それに比べ、若い人たちは、ある意味、気の毒と思う。闘うエネルギーをどう発散させるか？闘う土俵、戦場がない。スマホ、インターネットだけではだめ。目に見え、お互い生の声で語り合い、ともに行動すること抜きでは。どう工夫する？結論・・・安保闘争の教訓、総括、そして、現在の情勢分析、今後の闘いの方向を勉強したい。かつての「人民大学」「勤労協・労働講座」が懐かしい。

コロナ問題雇用と暮らしの緊急対策

単発の支援ではなく、継続した支援を

4月から数えて4回目となった生活保護問題対策全国会議主催の「コロナ災害を乗り越える いのちと暮らしを守るなんでも電話相談会」の第4弾が10月10日(土)に開催され、今回も北九州市社保協は連携して取り組みを行いました。1回目から回を重ねるごとに相談件数は減少していきましたが、それでも舞い込んでくる相談は内容が切実なものも多く事態はより一層、深刻化しているのは否めない状況です。潜在的に困窮している人々に、この相談会を知ってもらうことが重要との思いから今回は全国はもとより北九州市社保協も広報に力を入れました。チラシを地域に6,500枚配布。各民主団体の新聞に13,000枚を折り込み。また今回、趣旨に賛同頂いたミニコミ誌に無料掲載をしてもらいました。(市内350,000部)

マスコミ関係では新聞2社が事前告知と当日は民放TVと新聞社1社が取材に訪れました。昼のニュースで相談会の様子が流れたことや全国ではNHKのニュースとラジオ、SNSでの発信もあり「テレビを見た」「ラジオを聞いた。SNSで知った」方々からの相談電話が殺到しました。広報の効果もあってか、今回は全国で777件の相談

があり、ここ北九州市社保協の会場でも34件の相談を受けました。相談内容としては労働



者からの労働問題(生活問題に直結する)が多かったと思われます。特徴的な例をあげると、3人家族の観光バス運転手からは「GoToトラベルも始まったが未だ、自宅待機を命じられている。特別給付金など支援金は申請、受給してもらったが底をついた。今は貯蓄を切り崩しながら何とか生活している。この状態が続く様であれば、この先が不安」や40代会社経営の男性からは「コロナで赤字。持続化給付金など使える制度は活用したが、経営はいっこうに好転しない。このままでは会社が続けられない。破産手続きしかない」といった深刻な相談が他にも多数、寄せられました。やはり、一回限りの支援では一時しのぎは出来ても、すぐに窮地に追いやられる現状があることが如実に伝わってきました。「持続した支援」の必要性をあらためて訴えていこうと思います。

(北九州市社保協事務局 岡本)